

# Press release

## 世界のクレーム総額の 17%（100 億ユーロ）をアジア太平洋地域が占める。全世界では損失の最大要因は火災と爆発事故：アリアンツ

- 2013～2018 年にかけての世界各国のクレーム 47 万件を分析。経済的損失が最も大きかったのは火災／爆発、および航空事案による事故です。
- 企業保険クレームの大半は技術的あるいは人的要因によるもので、クレーム総額の 87% を占めます。
- 財物クレームは高額化が進み、事業中断（BI）損失の割合が高まってきています。

**2018 年 12 月 13 日、シンガポール：Allianz Global Corporate & Specialty (AGCS) の最新の調査によると、保険会社と被保険事業者にとって最も大きなクレームを発生させる事案は、火災や爆発となっています。また過去 2 年間、ハリケーンなどの自然災害により壊滅的な被害が発生していますが、企業保険クレームの圧倒的多数を占めるのは技術的・人的な要因によるものです。**

AGCS の最新レポート「グローバル・クレーム・レビュー (Global Claims Review)」では、200 ヶ国以上の過去 5 年間（2013 年 7 月～2018 年 7 月）、クレーム総額およそ 580 億ユーロ（665 億ドル）に及ぶ 47 万件以上のクレームの分析を基に、企業保険クレームの主要な要因を明らかにしていきます。

経済的損失が最も大きかったのは火災／爆発、航空事案、作業／保守の不良、悪天候で、これらを併せるとクレーム総額の 50% を超えます。また、トップ 10 の損害要因だけで全世界の経済的損失の 75% 以上を占めています。

「この報告書からは、事業者と保険会社にとってリスクに晒されているものの価値がますます高くなってきていることが分かります」と話すのは **Philipp Cremer (Global Head of Claims, AGCS)** です。「グローバル且つ相互に繋がらう今日の事業環境では、価値の地理的な集約 — 多くの場合はリスクの高い地域への集約 — およびグローバルなサプライ・チェーンやネットワークによる連鎖的な作用により、経済的損失が増加します。将来に目を向けると、新しいテクノロジーは事業上のメリットをもたらすとともに、リスクやクレームの要因ともなっていきます。またその一方で、損失の防止や低減に役立ったり、さらにはお客様のためにクレーム処理プロセスを改良する機会を与えてくれるものでもあるのです」。

### アジア太平洋地域でのリスクの増大

アジア太平洋地域におけるクレーム額は 100 億ユーロに迫り、全世界のクレーム総額の 17%、クレーム件数では 6% にのぼります。

この地域のフィナンシャル・ラインと賠償責任保険クレームは特に、規制当局による環境保護や消費者保護規制の強化、ならびに補償を受ける権利に対する一般市民の意識の高まりから、規模・頻度の両面で高まってきています。

「この地域の D&O と専門職業賠償責任保険に関していうと、アジア市場では米国やヨーロッパにおける法の理解に必ずしも沿わない、強力な規制の取り締まりが見られます。特にオーストラリアでは、訴訟の増加により D&O 活動が急激に高まってきています。集団訴訟をはじめ、訴訟への資金提供者の増加により、オーストラリアは米国以外で最も訴訟の多い国の一つにまでなってきています」と話すのは Stephan Kammertoens (Financial Lines Claims Specialist, AGCS) です。

アジアではまた、賠償責任クレームの頻度も高まってきています。「2017 年第 1 四半期、AGCS に寄せられたアジアの賠償責任クレームは 800 件程度でしたが、これが 2018 年第 2 四半期には 1,300 件にまで増えてきています」と話すのは Peter Oenning (Liability Claims Specialist, AGCS) です。「また、アジアではこれまでよりも大幅に規模の大きいクレームも現れてきています。全世界から AGCS に寄せられる大規模クレームの 10 件中 9 件は米国からという時代もありましたが、今ではアジアでの活動の高まりを反映して、10 件中 7 件程度となっています。企業のグローバル化が進み、米国で事業を展開するアジア企業が増えるなか、これらの企業が訴訟の対象となる確率も高まってきているのです」。

#### 火災や航空関連の修復コストの高まり

過去 5 年間、火災や爆発事案による損害は 140 億ユーロを超え、今回分析した大規模非自然災害事案 20 件の半数以上 (11 件) が火災や爆発によるものでした。また、クレーム額の平均は 150 万ユーロに迫ります。

中国では、2015 年の天津での爆発事故 — 港湾やコンテナ保管所に大きな混乱をもたらし、複数の事業者に影響を与えた — などの大規模産業火災により、火災が損害のトップ要因となっており、クレーム額では中国国内全保険請求の 65% を占めています。

「財物保険では一般的に、インフレ、およびグローバル化やサプライ・チェーンの統合による価値の集約によってクレーム額が高くなります」と話すのは Raymond Hogendoorn (Property and Engineering Claims Specialist, AGCS) です。「製造業での効率化が進むにつれ、面積あたりの価値は飛躍的に高まってきています。面積あたりの火災や浸水によるクレーム額は 10 年前と比較して大幅に高額になってきているのです」。

また、火災や爆発事案をはじめ、今回の報告で特定したその他の主要な損害要因からの最終損失額には、事業中断 (BI) の影響によるコストが大きな負担として加わってくる場合があります。現在の大規模財物保険クレームにはほとんどの場合 BI 要素が関わっています: BI 財物保険クレームの平均総額は現在では 310 万ユーロにのぼり、対応する直接的な財物損害額の平均 (220 万ユーロ) を約 39% 上回っています。

近年、世界の各国が記録的な自然災害に見舞われるなか、損害要因のトップ 10 に登場する自然災害は意外にも悪天候のみとなっています。分析によると、企業保険クレームは、技術的・人的な要因、いかえると非自然の災害が要因となっている場合が一般的で、これらは保険請求額で見た場合、全クレームの 87% を占めています。

世界の航空産業は近年、史上最も安全な年を記録していますが、クレームの動きが勢いを落とす兆しは見えませんが、地上・空中における航空機の衝突/墜落事案は、世界的には損害の第 2 の要因です。これはオーストラリアでは最大の要因となっており、クレーム額の 1/3 近

くを占めています。また、航空機への複合材料や高度な高付加価値エンジンの採用による修理コストの高まりも要因です。

### 賠償責任のトレンドと InsurTech の改善

事業者の賠償責任損失のトップの原因は、欠陥製品と作業不良事案で、クレーム額では全クレームの 14%に相当します。シンガポールでは、企業保険損失額の 60%近くが作業不良事案によるものです。自動車製造業などではサプライ・チェーンはますます複雑さを増し、製品リコールの規模、そしてそれに伴う製造物責任クレームも拡大してきています。また、企業が世界各国のサプライヤー数の集約を進めていることから、これらの少数サプライヤーの製造物責任リスクは飛躍的に高まっています。

大規模な企業賠償責任クレームの場合、その約 1/3 に第三者との訴訟が関わっており、財物保険ではこのようなことが平均で 1%に満たないのとは対照的です。

分析からは、過去 5 年間、被保険者の損害補償に保険会社から 1 日平均 320 万ユーロが支払われていることが分かります (AGCS 一社で 2017 年中に 48 億ユーロ)。また、先進技術を導入してクレーム処理プロセスの改良に取り組む保険会社も増えてきています。低額で高頻度の保険請求では、機械学習やロボットを導入することによってクレーム処理の迅速化を図ることができます。AGCS では、自然災害発生後に強風や浸水による被害を迅速に把握するために衛星画像やドローンを活用し、それにより損害見積の迅速化を図り、より適切にリソースを割り当て、保険金支払いをより短時間のうちに行うことができるようになっていきます。

今回のレポートでは、13 の国における損害項目別の統計を示すとともに、航空、海運、エネルギーなどのさまざまな業種別、ならびに財物、エンジニアリング、賠償責任、フィナンシャル・ラインなどの保険種類別にクレームのパターンを分析していきます。

\*\*\*

#### メディア窓口

シンガポール : Wendy Koh

+65 6395 3796

wendy.koh@allianz.com

Link to [Overview of AGCS Global Claims Review 2018](#):

Link to [PDF of AGCS Global Claims Review 2018](#):

Link to [About Allianz Global Corporate & Specialty](#)

Link to [Press Release Disclaimer](#)